

授業科目名	①		
実務経験講師	②	実務経験	③
開講年度	④ 年度	学 期	⑥
年 次	⑤ 年次	授業回数	⑦ 回
単 位 数	単位	単位時間数	時間
授業科目の概要	⑧		
授業科目の到達目標	⑨		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7		⑩	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑪
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 実務経験講師

講師に担当する科目に関する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

③実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

④開講年度

⑤年次

授業を受ける学年です。

⑥学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年(全期)・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑦授業回数

⑧授業科目の概要

授業内容のたまかな説明です。

⑨授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達すべき学修の目標です。

⑩授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑪使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

授業科目名	統計学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	3 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	統計の意義、目的を理解する 主な統計手法を学ぶ 統計の活用法を学ぶ		
授業科目の到達目標	統計学を学び、ヒトの健康事象を扱う保険統計を理解する。 保健情報で保健・医療・福祉などの健康に関する情報を判断する能力を養う。 疫学を学び疾病の原因と結果の因果関係を理解する。 政府統計を理解する。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	統計学について、保健統計とは何か 保健統計学の目標、種類、国家統計調査	講義 スライド	
2	疫学総論 健康障害の発生要因、方法論	講義 スライド	
3	疫学の分析手順、観察研究	講義	図表作製
4	保健統計の方法 調査方法の分類、有病と罹患	講義	小テスト
5	検定について(t 検定と X ² 検定) 選定法の選択、実際	講義 スライド	
6	データの表現、特性 棒、折れ線、円、帯、ヒストグラム、散布図、相関図	講義	図表作製
7	情報の保護と倫理 情報社会の特性と問題点 インターネットと情報倫理	講義 スライド	小テスト
8	定期試験		

使用テキスト	最新歯科衛生士教本 保健情報統計学
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	保健指導 衛生学
この授業科目から発展する主な科目	衛生学、保健指導 予防歯科、栄養学 予防歯科、栄養学

成績評価の方法	定期テスト、授業態度 15% 小テスト5%
その他	欠課、遅刻のないよう受講して下さい。
受講生への要望等	3年次④での科目となり、国家試験問題も併せて学んでいただきます。

授業科目名	口腔病理学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	3 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	口腔病理学は口腔内に現れる異常を学びます。 歯科衛生士として口腔内を観察し正常なのか異常があるのか、異常があるならそれが何かを理解することで治療へと繋がります。		
授業科目の到達目標	1 口腔の正常な状態を説明できる 2 口腔の異常を識別できる 3 全身疾患と関連した関連した異常を説明できる 4 先天異常を識別できる 5 異常の原因を説明できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	口腔病理の概要について 1 章 歯の発育異常	講義	
2	2 章 歯の損傷と着色・付着物 3 章 う蝕	講義	
3	4 章 象牙質・歯髄複合体の病態 5 章 歯周組織の病態	講義	
4	6 章 口腔粘膜の病変 7 章 口腔領域の嚢胞と腫瘍	講義	
5	8 章 口腔癌 9 章 顎骨の病変 10 章 唾液腺の病変	講義	
6	11 章 口腔領域の奇形 12 章 口腔組織の加齢変化	講義	
7	口腔病理総復習、まとめ	講義	
8	定期試験	定期テスト	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	なし
この授業科目の前提となる主な科目	病理学

この授業科目から発展する主な科目	口腔外科学
成績評価の方法	定期テスト
その他 受講生への要望等	

授業科目名	衛生行政・福祉論		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2023年度	学 期	前期
年 次	3年次	授業回数	15回
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間
授業科目の概要	福祉について考え、社会生活を営んでいく上での社会規範を知り、歯科衛生士に関する法規を学びその知識を身につける。		
授業科目の到達目標	①衛生行政の概要(目的・組織 他)を理解し「衛生法規の分類」が記述できる。 ②歯科関係三法の概要(細則・免許・試験・業務)を記憶し歯科衛生士の業務について説明ができる。 ③社会保険と社会福祉の体系を理解し記憶する。 ④歯科衛生士国家試験に向けた試験対策知識を理解し身につける。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	衛生行政の目的 福祉について考える	講義・演習	教科書を良く読んでくる。
2	保健・医療・福祉の制度の概要	講義	前回の小テスト
3	法規の種類と概要	講義	前回の小テスト
4	歯科関係3法について 歯科医師法・歯科技工士法	講義	前回の小テスト
5	歯科衛生士法	講義	前回の小テスト
6	医療動向	講義	前回の小テスト
7	社会保障について 社会保障の定義と内容	講義	前回の小テスト
8	社会保障行政機構の概要	講義	前回の小テスト
9	社会福祉について 社会福祉行政	講義	前回の小テスト
10	中間試験 医療保険について・医療保険の概要	講義	教科書を良く読んでくる
11	税金の仕組み・年金制度について	講義	前回の小テスト
12	介護保険制度	講義	前回の小テスト
13	障害者の福祉制度	講義	前回の小テスト
14	精神保健・災害時の精神保健	講義	前回の小テスト
15	定期試験	講義	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生士と法律・制度
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	公衆衛生学・保健指導論
この授業科目から発展する主な科目	公衆衛生学

成績評価の方法	定期試験・授業態度
その他 受講生への要望等	法律や制度は大変難しいので、良く予習復習して少しずつ理解していきましょう。

授業科目名	医療安全		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	3 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	1. 医療安全と感染予防について理解し実践できる。 2. 成人・小児等の一次救命救急に対する理解ができる。 3. 誤嚥・アナフィラキシーショック・低血糖発作・止血などの一般的な救急対応と処置について理解ができる。 4. 主要疾患とその対応について理解できる。 5. 臨床検査データとその意味について理解できる。		
授業科目の到達目標	臨床検査の方法と疾患に関する数値のデータを覚える。 チーム医療に携わる一員として確実に理解する。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	医療安全及び、ヒヤリハット・アクシデントの意味と対策	講義	
2	救急蘇生法とバイタルサイン	講義	
3	スタンダードプレコーション	講義	
4	感染予防策・バイタルサインの測定	講義 実習	実習記録
5	滅菌・消毒、医療廃棄物の取扱い	講義 実習	実習記録
6	全身疾患の基礎知識と口腔内、歯科診療上の注意点	講義	
7	口腔領域のがん	講義	
8	周術期における歯科診療	講義	
9	訪問歯科診療における対応	講義	
10	臨床検査データとその意味	講義	
11	救急救命講習①	講義 実習	実習記録
12	救急救命講習② AED の取扱い	実習	実習記録
13	口腔領域の臨床検査①	講義 実習	実習記録
14	口腔領域の臨床検査②	実習	実習記録
15	定期試験	定期テスト	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 歯科衛生学シリーズ 臨床検査
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学、生理学、生化学

この授業科目から発展する主な科目	歯科診療補助論
成績評価の方法	定期試験(80点) 出席・実技・忘れ物・態度状況(20点)
その他 受講生への要望等	医療人として必要な知識と技術の習得が目標です。国家試験でも臨床歯科医学として検査の数値や疾患との兼ね合いが出ます。これからのチーム医療で必要となる知識です。チーム医療に携わる一員として確実に理解しましょう。

授業科目名	実習指導Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2023年度	学 期	通年
年 次	3年次	授業回数	45回
単 位 数	3単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	歯科衛生士として様々な活躍の現場を知り、それぞれのどのような知識や技術が必要かを考え、習得していく科目です。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学齢期の歯科検診の実践ができる 2. 乳幼児に対する口腔保健指導ができる 3. 高齢者の特徴がわかる 4. 認知症や全身疾患を理解し、安全を考慮した対応ができる 5. 高齢者に対する口腔保健指導ができる 6. 大学病院の口腔外科での診療内容を把握する 7. 衛生・不衛生の概念をしっかりと把握する 8. 小外科手術のアシストができる 9. 保健指導や予防処置を実践できる 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	臨床実習Ⅲ－Ⅰ 実習の手引き 3年次実習目標 到達目標 身だしなみ 学校歯科検診について 【キーワード】感染予防 症例に応じた器具・器材	講義	課題 手引きの確認
2	学校歯科検診指導 ・学齢期について ・検診表の見方 ・歯式の確認	講義	学校保健について
3	学校歯科検診指導 ・検診の流れ確認 ・グループ分けの発表 ・シミュレーション	講義 演習	学校保健について
4	学校歯科検診 ・振り返り、反省	講義	
5	2歳児歯科健康診査実習指導① ・日程 ・実習目標 ・事前学習 ・1日の流れ 【キーワード】母子保健 関連職種	講義	課題 母子保健について
6	2歳児歯科健康診査実習指導② 小児の発達 集団指導 【キーワード】母子健康手帳 健康教育	講義 演習	課題 母子保健について

7	歯科医院実習指導 日誌の記入の方法 診療記録の読み方 【キーワード】業務管理 術式	講義 演習	
8	歯科医院実習指導 日誌の記入の方法 診療記録の読み方 【キーワード】業務管理 術式	演習	
9	歯科医院実習指導 診療の流れ確認 ・検査・TBI	実習	
10	臨床実習前オスキー試験 ・オスキー試験 ・歯牙模型の配列試験	試験	
11	臨床実習前オスキー試験 ・オスキー試験 ・歯牙模型の配列試験	試験	
12	高齢者施設実習指導 ・概要 ・事前学習 ・日程・単位・評価について 【キーワード】老人保健 関連職種	講義	
13	高齢者施設実習指導 実習の展開 実習日誌 【キーワード】介護保険制度 施設事業内容	講義 演習	
14	高齢者施設実習指導 実習施設の概要 調べ学習 【キーワード】介護保険制度 施設事業内容	演習	
15	高齢者施設実習 事前講義	講義 実習	
16	高齢者施設実習指導 口腔体操、口腔ケア 実習 【キーワード】あいうべ体操、間接訓練、保湿	実習	課題 確認テスト
17	高齢者施設実習前試験 事前学習確認テスト	試験	
18	高齢者施設実習 オリエンテーションの確認	講義	
19	臨地実習の振り返り 発表準備(P・P 作成)	演習	
20	臨地実習の振り返り 発表準備(P・P 作成)	演習	

21	臨地実習終了後の発表 P・P を使用し発表	演習	
22	大学病院実習指導 ・概要 ・事前学習 ・日程・単位・評価について 【キーワード】 病院歯科の役割 受診の流れ	講義	課題 実習所の場所、交通手段の確認 課題 全身疾患や口腔疾患についてのレポート①
23	大学病院実習指導 口腔外科領域 【キーワード】 病院歯科の役割 受診の流れ	講義	課題 全身疾患や口腔疾患についてのレポート②
24	大学病院実習 事前講義	講義	
25	大学病院実習 事前講義	講義	
26	大学病院実習指導 手洗い 外科用グローブ等の取り扱い	講義 演習	課題 課題発表の練習
27	大学病院実習指導 外科器具の種類と名称・取り扱い	講義 演習	課題 課題発表の練習
28	大学病院実習事前学習 縫合・麻酔の準備	講義 演習	
29	大学病院実習事前学習 縫合・麻酔の準備 オスキー試験	確認テスト	
30	大学病院実習事前学習 縫合・麻酔の準備 オスキー試験	確認テスト	
31	大学病院実習事前学習 難抜歯について 器具の準備 術式	講義 演習	
32	大学病院実習事前学習 難抜歯について 器具の準備 術式 オスキー試験	確認テスト	
33	大学病院実習事前学習 難抜歯について 器具の準備 術式 オスキー試験	確認テスト	
34	大学病院実習事前学習 悪性腫瘍・良性腫瘍について 口唇・口蓋裂について 病院内の集中治療室について 清潔域・不潔域 オペ室について 嚥下機能について(VE・VF)	講義 演習	
35	大学病院実習事前学習 悪性腫瘍・良性腫瘍について 口唇・口蓋裂について 病院内の集中治療室について 清潔域・不潔域 オペ室について 嚥下機能について(VE・VF)確認テスト	講義 確認テスト	

36	大学病院実習事前学習 課題発表	講義	
37	大学病院実習 実習前確認テスト オリエンテーションの確認	講義	
38	臨地・臨床実習Ⅲ-Ⅰ 振り返り	講義	
39	臨床実習Ⅲ-Ⅱ 実習の手引き 3年次実習目標 到達目標 身だしなみ 【キーワード】歯科予防処置		
40	大学病院実習の発表に向けて資料作り①	講義	
41	大学病院実習の発表に向けて資料作り②	講義	
42	大学病院実習の発表に向けて資料作り③	講義	
43	発表会① 自治医科大学附属病院 口腔外科にて実習	講義	
44	発表会② 獨協医科大学病院 口腔外科にて実習	講義	
45	臨地・臨床実習Ⅲ-Ⅱ 振り返り 総まとめ	講義	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「小児歯科」「高齢者歯科」
参考書・資料 等	ポケットマニュアル
この授業科目の前提となる主な科目	全て
この授業科目から発展する主な科目	歯科診療補助・歯科保健指導・歯科予防処置
成績評価の方法	出席状況(70点)、小児の発達レポート(10点)、大学病院実習事前課題(10点) 実習の振り返り(10点)
その他 受講生への要望等	課題は提出期限を守ってください 体調を整えて、欠席をしないようにしましょう。

授業科目名	臨地・臨床実習Ⅲ		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	2023 年度	学 期	通年
年 次	3 年次	授業回数	
単 位 数	10 単位	単位時間数	450 時間
授業科目の概要	学内で学んだ知識・技術・態度をもとに、歯科医療現場で実践実習を行います。 様々な歯科医療現場での歯科衛生士の役割を認識し、責務を自覚した行動がとれる能力を養うための実習です。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生士の公衆衛生活動を知る 2. 乳幼児への歯科衛生指導の内容がわかる 3. 高齢者施設での歯科衛生活動の内容がわかる 4. 歯科診療所で歯科予防処置ができる 5. 歯科診療所で歯科保健指導ができる 6. 大学病院と一般歯科診療所の違いがわかる 7. 要介護者、全身疾患患者への対応ができる 8. 多職種連携の中での歯科衛生士の役割がわかる 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
	歯科医院実習(臨床実習Ⅲ－Ⅰ)	181 時間	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
	2 歳児歯科健診 (臨地実習)	1 日(7 時間実習)	臨地・臨床実習日誌 実習課題、振り返り
	高齢者施設実習(臨地実習)	6 時間×10 日(60 時間)	臨地・臨床実習日誌 実習課題、振り返り
	歯科医院実習(臨床実習Ⅲ－Ⅱ)	155 時間	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
	大学病院実習(臨地実習)	70 時間 7 時間実習×10 日	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り

使用テキスト	新人歯科衛生士・デンタルスタッフ ポケットマニュアル 医歯薬出版株式会社
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	臨地・臨床実習Ⅰ、臨地・臨床実習Ⅱ、実習指導Ⅲ
この授業科目から発展する主な科目	出席状況(5 割)、実習先担当者の評価・実習評価(5 割)
成績評価の方法	校外実習のため、指導者の指示に従い実習を行うこととなります。 学生としての謙虚さと、歯科衛生士としての現場に出るという意識をもって臨んでください。

授業科目名	医学基礎		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	3 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	1 個人の医学に対する知識を身につける。 2 国家試験の基礎学力を学ぶ。		
授業科目の到達目標	1 個人の医学に対する知識を身につけ理解する。 2 国家試験の基礎学力を学び、生かす。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	オリエンテーション（人体）	講義	
2	脳神経、消化器 肝、胆、膵	講義	
3	心臓、脈管疾患 内分泌、代謝(腎、泌尿器)	講義	
4	免疫病、アレルギー性疾患、膠原病 血液、造血器疾患	講義	
5	感染症 小児、救急医学	講義	
6	中毒、物的原因による疾患	講義	
7	基礎問題Ⅰ 基礎問題Ⅱ 基礎問題Ⅲ 直前講義	講義	
8	定期試験	定期テスト	

使用テキスト	イラストで病気を理解する ビジュアルノート
参考書・資料 等	なし
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学
この授業科目から発展する主な科目	生理学、生化学、病理学
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	知識の統合		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2023 年度	学 期	通年
年 次	3 年次	授業回数	45 回
単 位 数	3 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	これまでの学習した知識を統合し、臨床で応用できる能力を養う		
授業科目の到達目標	これまでの学習した知識を統合し、臨床で応用できる能力を養い知識の理解を深める		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	日常生活自立度、口腔清掃自立度について	講義	
2	口腔保健管理の理解(施設、居宅)	講義	
3	介護保険と口腔保健管理	講義	
4	口腔機能の向上サービス	講義	
5	訪問口腔衛生指導、口腔機能アセスメント①	講義	
6	訪問口腔衛生指導、口腔機能アセスメント②	講義	
7	口腔ケアプラン①	講義	
8	口腔ケアプラン②	講義	
9	居宅療法管理指導の記録	講義	
10	周術期について 周術期の口腔管理	講義	
11	障害者、有病者の歯科診療	講義	
12	生涯を通じた歯科保健対策① 対策と歯科的問題点	講義	
13	生涯を通じた歯科保健対策② 妊産婦、乳児・幼児期	講義	
14	生涯を通じた歯科保健対策③ 学童期、青年期	講義	
15	生涯を通じた歯科保健対策④ 成人期、老年期	講義	
16	う蝕活動性試験	講義	
17	フッ素応用	講義	
18	フッ素中毒量算出方法 フッ素量算出方法 フッ化ナトリウム算出方法	講義	
19	歯周疾患予防の臨床	講義	
20	歯周疾患に用いる指数	講義	
21	口腔清掃と口腔観察 付着物・沈着物について	講義	
22	化学的プラークコントロール	講義	
23	歯ブラシ(種類、名称、形態、管理)について	講義	

24	各種ブラッシング法	講義	
25	プラークコントロールの補助用具	講義	
26	食生活と口腔保健、バランスガイド、BMI	講義	
27	口腔保健の意義、健康の概念、予防 3 相	講義	
28	法律と制度	講義	
29	地域保健・公衆衛生 プライマーヘルスケア、ヘルスプロモーション、健康日本 21(目標値) 歯科疾患実態調査について	講義	
30	感染症について	講義	
31	滅菌、消毒、洗浄について	講義	
32	感染症廃棄物の取り扱いについて	講義	
33	歯科材料の取り扱いについて	講義	
34	セメントの種類	講義	
35	仮封材について	講義	
36	印象材について	講義	
37	模型材とトリミング	講義	
38	歯科用機器の取り扱い(ユニット、レーザー等)	講義	
39	全身疾患患者への対応(薬)	講義	
40	全身疾患患者への対応(介助)	講義	
41	全身疾患患者への対応(偶発時の対処)	講義	
42	歯科予防法の総まとめ	講義	
43	歯科保健指導の総まとめ	講義	
44	歯科診療補助の総まとめ	講義	
45	定期試験	試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本「保健生態学」「歯科診療補助論」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	歯科診療補助論、歯科保健指導論、歯科予防処置論、高齢者歯科学、口腔衛生学、公衆衛生学
この授業科目から発展する主な科目	臨床実習Ⅲ-Ⅱ
成績評価の方法	出席、授業態度、実技試験、筆記試験で総合的に判断
その他 受講生への要望等	施設実習や臨床実習に向けて応用できるように能力を養いますので重要な科目となります。 欠席の無いようにしてください。

授業科目名	総合歯科学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2023 年度	学 期	後期
年 次	3 年次	授業回数	45 回
単 位 数	3 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	臨床に沿った治療の流れやそのベースとなる知識の定着を図る 国家試験に向けての知識の定着を図る		
授業科目の到達目標	歯の口腔の基礎知識の理解する う蝕の治療法(保存療法学・修復学)の理解する 歯周病の分類～歯周外科まで 歯周療法の理解する 口腔外科学を理解する 小児歯科学を理解する 歯科矯正学を理解する 歯科補綴学を理解する		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯の口腔の基礎知識①	講義	
2	歯の口腔の基礎知識②	講義	
3	窩洞の分類 治療法 術式 使用器具について	講義	
4	直接修復法 術式 使用器具について	講義	
5	歯間分離、隔壁 術式 使用器具について	講義	
6	間接修復法 術式 使用器具について	講義	
7	保存修復のまとめ・復習	講義	
8	歯髄炎 治療術式 使用器具について	講義	
9	根管治療(麻酔抜髄法) 術式 使用器具について	講義	
10	根管治療(根管感染治療法) 術式 使用器具について	講義	
11	覆髄法 術式 使用器具について	講義	
12	根尖性歯周炎 外科治療歯周療法のまとめ・復習	講義	
13	歯内療法のまとめ	講義	
14	歯肉炎と歯周炎について	講義	
15	歯周病の流れ、歯周病のリスクファクター	講義	
16	歯周外科治療 術式 使用器具について	講義	
17	SPTとメンテナンス	講義	
18	歯周療法まとめ	講義	
19	印象域、咬合様式、仮想平面	講義	
20	欠損補綴装置 ブリッジ	講義	

21	欠損補綴装置 義歯	講義	
22	義歯の製作工程	講義	
23	欠損補綴装置 義歯	講義	
24	CAD/CAM	講義	
25	その他の補綴物	講義	
26	補綴のまとめ・復習	講義	
27	清潔域、不潔域、スタンダードプリコーション	講義	
28	難抜歯 術式 使用器具について	講義	
29	顎骨骨折について	講義	
30	口腔病理、腫瘍、口腔がんについて	講義	
31	唇顎口蓋裂について	講義	
32	顔面神経麻痺	講義	
33	口腔外科まとめ・復習	講義	
34	小児の心身の発達	講義	
35	小児の口腔の発達(ヘルマン、空隙)	講義	
36	歯の形成異常、補綴装置	講義	
37	乳歯の歯内療法、補綴	講義	
38	小児のまとめ・復習	講義	
39	歯の位置異常、矯正力	講義	
40	マルチブラケット装置について	講義	
41	可撤式矯正装置について	講義	
42	矯正まとめ・復習	講義	
43	臨床検査について 検査方法・正常値	講義	
44	放射線学まとめ	講義	
45	定期試験	試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学、臨床検査、保存修復・歯内療法、保存修復学、 口腔外科学・歯科麻酔、歯科矯正学、小児歯科学、歯科放射線学
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	歯周病学、歯科保存療法学、歯科修復学、歯科矯正学、歯科補綴学、歯科口腔外科学、 小児歯科学
この授業科目から発展する主な科目	国家試験対策
成績評価の方法	筆記試験
その他 受講生への要望等	国家試験の対策の授業となります。総まとめを行うので 1 つ 1 つの授業が重要になってきます。 欠席の無いようにしてください。